中学校におけるキャリア教育コーディネーターの役割
― カリキュラム・マネジメントに焦点をあてて ―

学 籍 番 号（２０９１２３）
氏　　名（中川　雄太）
主指導教員（森田　英嗣）

1. 背景

文部科学省の資料等からキャリア教育の動向にふれ、カリキュラム・マネジメントの観点からキャリア教育を実践するための体制や方法に関する具体的な計画が不足している実態や、推進担当教員の現状について述べている。実習協力校もその例外でなく、系統的なキャリア教育を進めていくために、中学校区の児童生徒の育成に向けて協力体制を取り実践を行ってきているが、組織体制やキャリア教育で身につけたい力の具体的な計画に課題があった。

2. 目的・筆者の立場と役割

本研究では、実習協力校のキャリア教育の質を高めるために、次に述べる立場・役割を持つ筆者が、キャリア教育部主導で、組織的に進めていくことができるように支援を行い、その効果を検証することにある。その後筆者の経験に基づいて得られた内容から、キャリア教育コーディネーターの役割を明らかにすることである。

実習協力校は日々の業務が多忙であることから、筆者は学校長の了解のもとキャリア教育コーディネーターの立場として、組織や同僚に主体的に働きかけ、より良い学校組織文化を形成していく役割を担った。

3. カリキュラム・マネジメントの実践と考察

3.1　実践の全体像

初めからキャリア教育のコーディネーターはこうあるべきだと枠組みを決めて行うのではなく、フリーな立場を利用して、できることはすべて支援していくスタイルで行った。学校組織や個別の教員に対して、結果的に振り返ると下記の 3 つの働きかけを行ってきた。1 つ目は、「方向を見誤らないように方向性を見定めていく」である。2 つ目は「求められたことにできるだけ答えて情報提供していく」である。3 つ目は、「しんどくなった時のサポート、精神的な支えになる」である。上記 3 つの働きかけは、同時並行で行った。

実践を振り返るために、以下のような 3 つの調査を実施した。①教員と生徒対象のキャリア教育で身につけたい力の意識向上を図るアンケートによる評価を行った。②辰巳哲子「キャリア教育の推進に影響を与えるカリキュラムマネジメント要素の検討：全国の中学校に対する調査分析結果から」（辰巳哲子, 2013）の調査シートの知見による評価を活用し校長とキャ

リア教育部長(2020 年、2021 年）から回答を得た。③上記 3 名の調査シートの回答で気になったこと、キャリア教育コーディネーターの役割の良かった点、課題のある点についてインタビューを行った。

3.2　実践のまとめ

日々の実践の中で、意識的にキャリア教育で身につけたい力を指導する教員が増加したことが、アンケート結果から明らかになった。一方で、「目標を実現するために、見通しをもって計画的に進めようとしている。」項目では、教員と生徒ともに低い平均値となった。辰巳(2013）の調査シートを活用し、検証を行ったところ、「教育目標の具現化」「カリキュラムのＰＤＣＡ」「リーダーシップ」については、一定の評価ができるように考えられる。一方で、「組織構造」「組織文化」「ウチソトの連携」については、今後取り組んでいく課題であると考えられる。インタビューからは、キャリア教育部と分掌部会との連携が課題であることがうかがえた。組織的に進めていく形はできつつある中で、キャリア教育を自分ごととして捉え、日々の実践に活かすことに課題があることを含めると、まだまだ体制にも課題がある。

4. キャリア教育コーディネーターの役割

経済産業省「キャリア教育コーディネーター育成ガイドライン」(経済産業省, 2010)から示されているキャリア教育コーディネーターの業務内容と役割、期待される機能に照らし合わせて、筆者の取り組みを整理する。その結果、児童・生徒等の多様な能力を活用する学びの「場」を提供すること等を通じ、キャリア教育の支援を行うことは、一定の評価ができる。一方で「キャリア教育に必要な地域資源の把握」「キャリア教育プログラムの実施に当たっての教育支援人材との調整」については該当する条件を確認することができなかった。学校支援同様に、キャリア教育コーディネーター側が丁寧に説明を行い、情報提供を通して企業とつながり、実施していくことが重要であると考えられる。

5. 成果と課題

キャリア教育コーディネーターの役割としては、丁寧に教員に説明を行い、情報提供を通して、教員とつながり、精神的なサポートを行いながら少しずつ実施していくことであるとうかがえた。キャリア教育コーディネーターが「教員どうしをつなぐ」役割が重要であると考えられる。一方で、学校や地域・企業等のニーズを踏まえたキャリア教育に関するプログラムの開発支援が必要になってくるが、企業との連携をキャリア教育コーディネーターとしてどのように行っていけばよいのかまだ明らかにできていないので今後の研究していく所存である。

最後に、現在は本研究で明らかになったことを元に、校外へ発信すべく「キャリア教育コーディネーターの手引き(仮）」の作成に取り組んでいる。今後さらに実践を重ねることで資料を完成させ、キャリア教育の実践に取り組みたいが、取り組み方が分からなくて困っている学校の助けとなることをめざし、今後も引き続き取り組んでいきたい。